



SD エンターテイメント株式会社

(東京証券取引所JASDAQ 証券コード 4650)

2021年 3 月期 第 2 四半期決算説明資料

2020年11月12日 (木)

SDエンターテイメント株式会社 代表取締役社長 平川 真淳

2021年3月期 第2四半期トピックス



企業主導型保育園新園展開

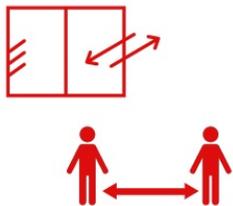
今年度中の開園に向け東京都内、横浜市および札幌市へ複数店舗申請中

SDフィットネス館内安心宣言

SDフィットネスでは、皆様が安心してご利用いただけるように、全館で業界の定める新型コロナウイルス感染症拡大防止策を徹底しております。

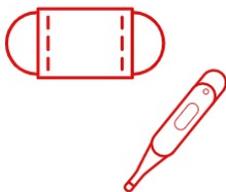
SDフィットネス館内安心宣言

クラブ運営の基本的感染対策



- ・自動換気や、施設のドア・窓・入口の開放による換気の徹底。
- ・スタジオレッスンの参加定員を制限。他のお客様との間隔を確保。
- ・スタジオレッスンの実施は30分～1時間間隔をあげ、除菌清掃の実施。
- ・来館されるすべての方に検温・健康チェックを実施。

スタッフの感染防止対策



- ・スタッフ出勤時の検温・健康チェックの徹底。
- ・館内では必ずフェイスガードもしくはマスクを着用。
- ・スタッフの同居家族や身近な人が感染症を発症した場合、出勤を停止。

施設の体制整備



- ・手指消毒剤を増設。
- ・トイレのジェットタオルを停止。
- ・2時間に1回以上の定期清掃を実施。消毒の徹底。
- ・マシンの一部利用停止や、間隔をあけることでソーシャルディスタンスを確保。
- ・除菌加湿器・飛沫感染対策ツールを設置。
- ・各マシンに設置されているタオルを撤去。使い捨て除菌シート、消毒剤の使用。

2021年3月期 第2四半期業績

〔連結損益計算書〕

- ・フィットネス、インターネットカフェは2Qにおいても引き続きコロナ影響が大きく売上高が大幅に減少
- ・販売管理費削減の施策を推進するも売上の減少をリカバリー出来ず前年に比べ減収減益
- ・コロナ休業に伴う損失(87,542千円)とコロナ影響による減損損失(94,736千円)で特別損失が増加

(単位：千円)

	2020年3月期 2Q実績	2021年3月期 2Q実績	増減額
売上高	2,325,292	1,750,223	▲575,069
売上総利益	2,100,231	1,581,918	▲518,313
販売管理費	2,014,801	1,744,921	▲269,879
営業利益	85,430	▲163,003	▲248,433
経常利益	54,807	▲193,761	▲248,569
特別利益	100,101	43,550	▲56,551
特別損失	91,926	209,201	117,275
親会社株主に帰属する 当期純利益	17,006	▲394,379	▲411,386

〔セグメント損益〕

ウェルネス事業 – 健康増進・社会生活の維持・発展を推進する事業 –

- ・ 保育・介護等は、コロナ禍の中でも利用者増により収益を伸ばしている一方、フィットネスは、利用者回復に時間を要しており2Q累計で収益減少

売上高1,266,079千円 (前年同期比 77.0%) 営業利益 ▲26,793千円 (前年 161,599千円)

クリエイション事業 – 余暇とココロを充実させる事業 –

- ・ オンラインクレーンゲームは、人気景品不足により収益が減少、インターネットカフェは、コロナ影響による利用者減少後の回復に時間を要しており収益が停滞

売上高 183,984千円 (前年同期比 70.4%) 営業利益 ▲49,201千円 (前年 ▲24,395千円)

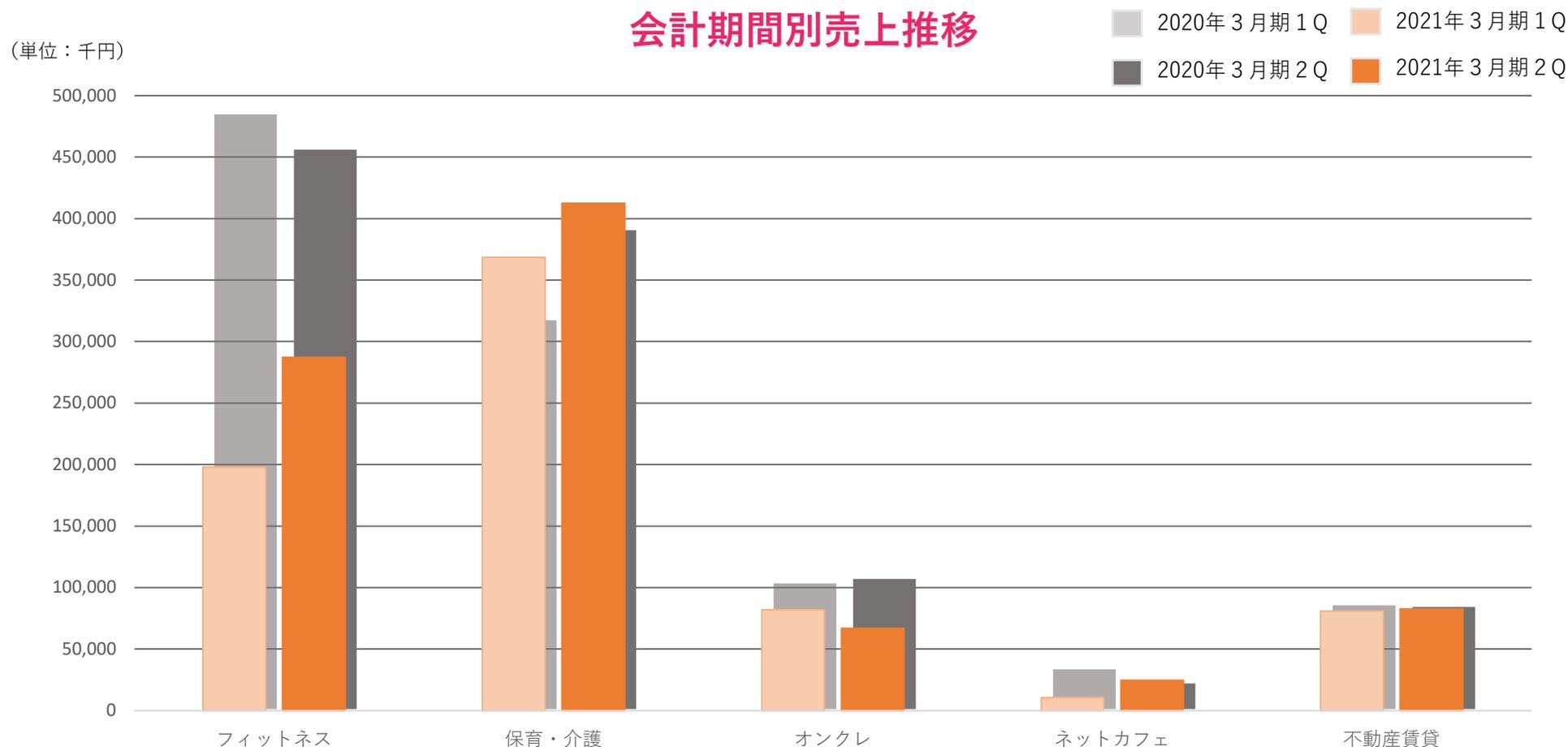
不動産賃貸事業 – 自社物件の有効活用を目的とした事業 –

- ・ 管理費のコストコントロールにより利益を維持

売上高 163,379千円 (前年同期比 97.6%) 営業利益 98,100千円 (前年同期比 108.8%)

〔セグメント損益〕

- 各事業、前期に比べ新型コロナウイルス感染症拡大の影響により売上は減少しているものの、今期1Qに比べ徐々に回復傾向にあり、その中でも保育・介護事業は好調



〔連結貸借対照表〕

自己資本比率は前期末に比べ4.8%減少、前年同四半期 2.8%減少

(単位：百万円)

資産の部 (主要項目抜粋)	2020年3月末	2020年9月末	前期比較	負債・資本の部 (主要項目抜粋)	2020年3月末	2020年9月末	前期比較
流動資産	1,573	1,368	▲205	流動負債	2,889	2,820	▲68
(現金及び預金)	898	809	▲89	(短期借入・一年内返済長期借入・社債)	2,012	1,997	▲15
(売掛金)	211	226	15	(その他流動負債)	876	823	▲53
(その他流動資産)	464	332	▲131	固定負債	1,982	2,211	229
固定資産	5,364	5,342	▲22	(社債・長期借入金)	1,690	1,859	168
(有形固定資産)	4,277	4,274	▲2	(その他固定負債)	292	352	60
(無形固定資産)	135	129	▲5	負債合計	4,871	5,032	160
(投資その他の資産)	951	938	▲13	株主資本	2,084	1,690	▲394
繰延資産	29	25	▲4	純資産合計	2,096	1,703	▲392
資産合計	6,968	6,736	▲231	負債・純資産合計	6,968	6,736	▲231
				自己資本比率	30.1%	25.3%	—

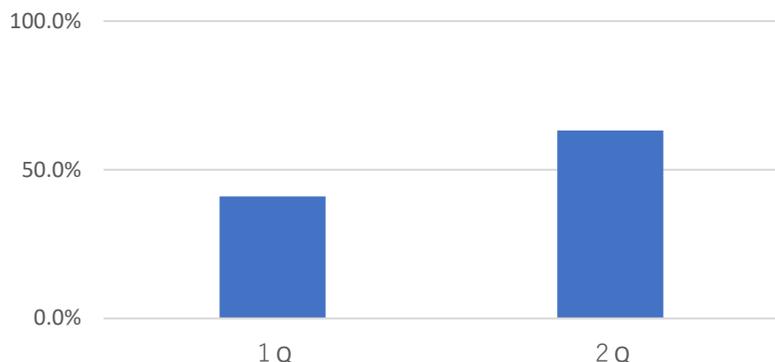
※ 百万未満は切り捨てて表示しております。

2021年3月期 第2四半期
事業別概況

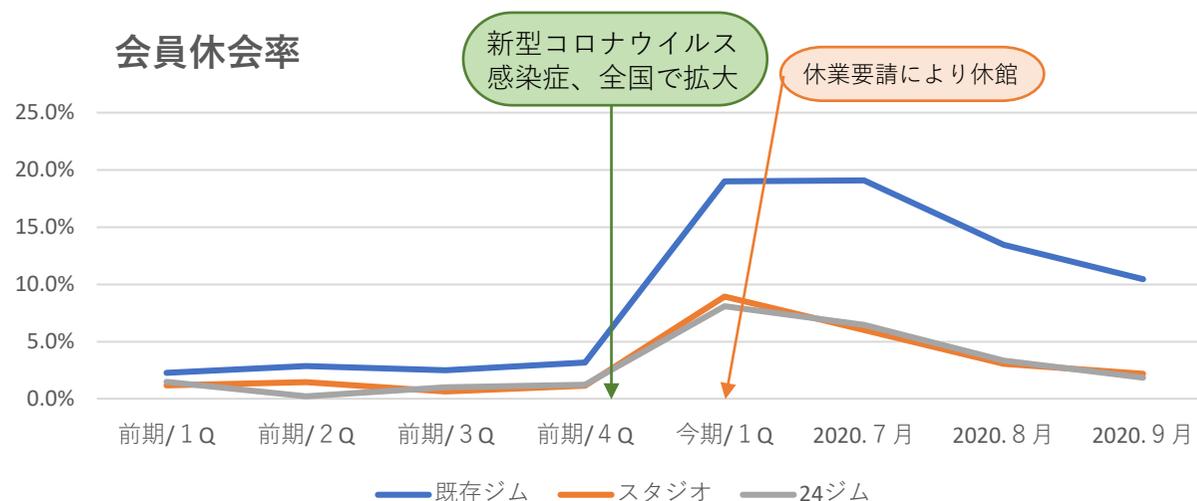
〔ウェルネス事業 - フィットネス - 〕

2Qに入り徐々に利用者が戻りつつあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響は今もなお続いている状況 (2Q会計期間前期比 63.1%)

〔売上高〕 会計期間別前期比



会員休会率



※総合型ジム(既存ジム)は影響大、24ジムは影響少。下記、宣言で早期回復を目指す。

※休業要請解除後は、以下を宣言し再開しております。

SDフィットネスの館内安心宣言

SDフィットネスは、皆様が安心してご利用いただけるようにクリーンな環境づくりを行ってまいります。



〔 ウェルネス事業 - フィットネス - 〕

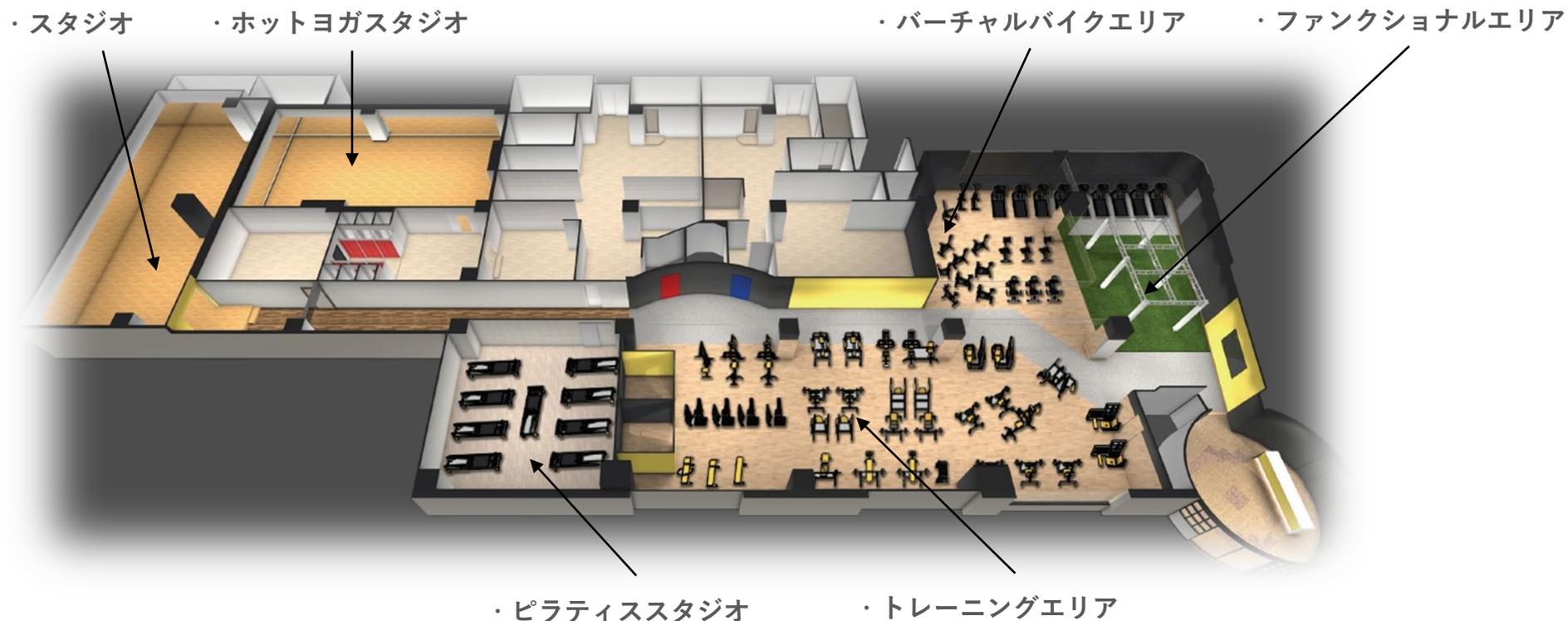
SDF小倉駅前店 (旧SDフィットネス小倉駅前店)

2020年6月11日リニューアルオープン

S.D.F

Self Design Fitness

特徴：6つのエクササイズゾーン、専門プログラムも充実

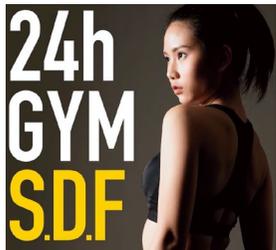


〔 ウェルネス事業 - フィットネス - 〕

SDF 24 阪急伊丹駅前店 2020年6月17日オープン

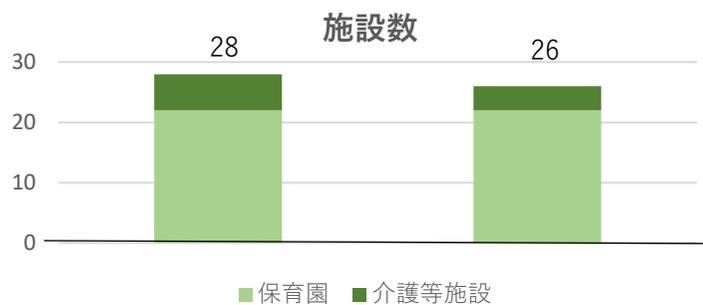
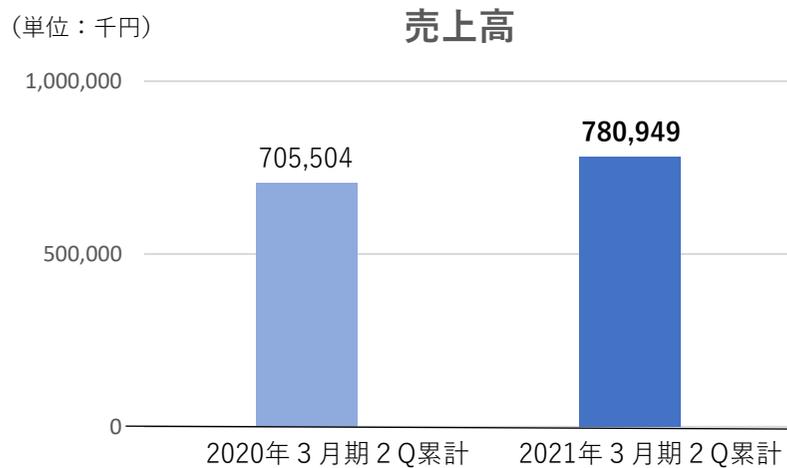


FEATURE - SDF24の特徴 -

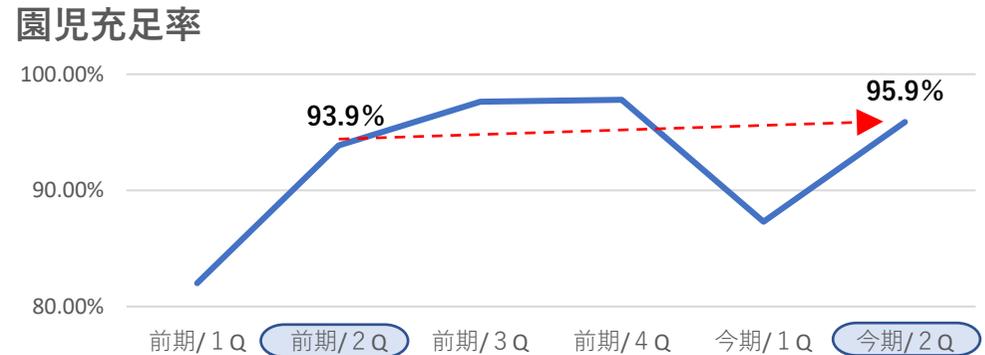


〔ウェルネス事業 - 保育・介護等 - 〕

2Qも好調をキープ、2園で増床を行い定員拡大。園児充足率は前年同期より上回り2%増加、介護等施設も安定して推移している



※充足率アップ、堅調に推移



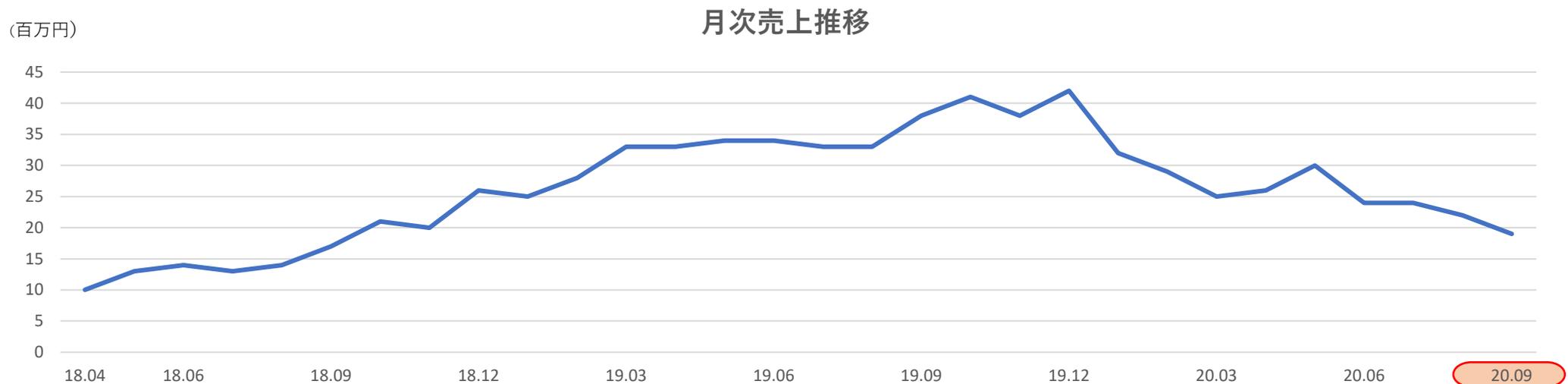
※今期より増床、定員拡大

- ・ディノスキッズ白石園 (札幌市白石区)
- ・カメラキッズ経堂園 (東京都世田谷区)



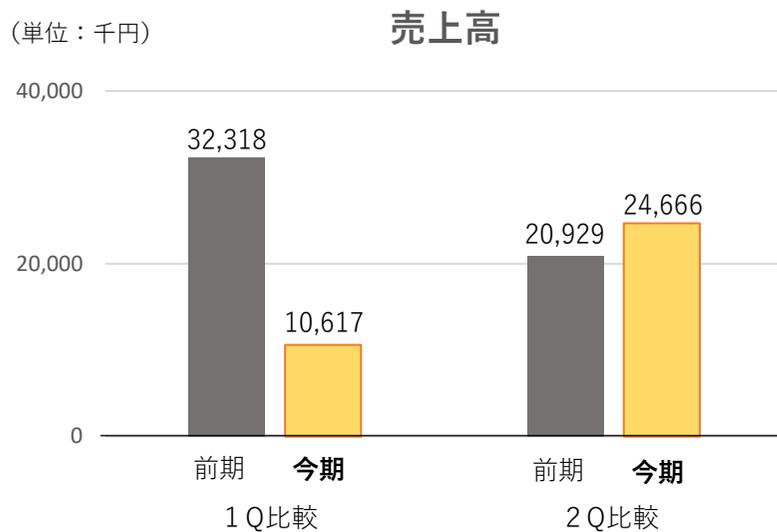
〔 クリエーション事業 - オンラインクレーンゲーム - 〕

- 1Q … 新型コロナウイルスの影響により海外からの景品入荷が一時ストップし売上停滞
2Q … 「ぽちくれ」はシステム入れ替え等による一時的な売上停滞、「とれたね」は人気アイテム不足等により売上が下降



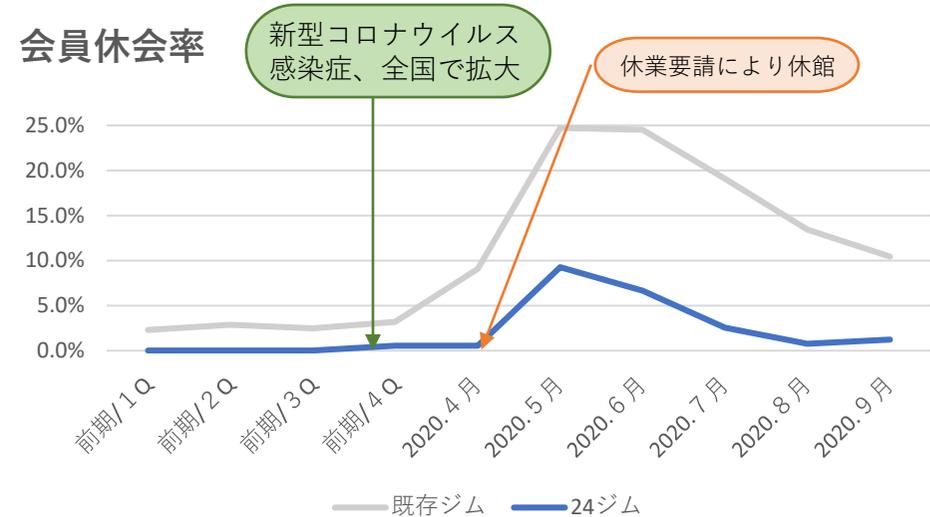
〔 クリエーション事業 - インターネットカフェ - 〕

- 1 Q … 休業要請により4月・5月は休業、解除後もソーシャルディスタンスを保つため座席数の間引きや、昨年5月の豊橋藤沢店（愛知県豊橋市）閉店の要因もあり前期に比べ売上高が大幅に減少
- 2 Q … 前期は既存店のリニューアルに伴う休業があり、また、前期業態転換によりオープンした24hジム併設店舗の売上効果により前期比117%



カフェ天六24時間ジム

会員休会率



※休業要請解除後、徐々に休会者が戻っている

2021年3月期 事業ビジョン

中長期的な経営戦略

フィットネス事業

必要なアイテムを選びお客様自身でデザインできるブティック型ジムや、スタジオやホットヨガ併設の24時間営業小型ジム、インターネットカフェ併設の24時間営業小型ジムなど、多様化するライフスタイルに対応しつつ、プラスアルファの付加価値創造に向けて取り組んでまいります。

保育事業

潜在的な待機児童問題の解消に貢献できるよう、当社が本社を置く北海道と子会社の拠点である首都圏を中心に、更に新規保育園の開園を進めていく考えでおります。

オンラインクレーンゲーム事業

アフターコロナに向けて、非対面型サービスである当事業を積極展開し、海外シェア拡大に向けてプロモーション強化を進めてまいります。



対処すべき課題

I. 経営管理の高度化

機動性向上のため、適切な人員配置、事業展開に応じた組織体制の整備により、意思決定のスピード化を図ってまいりました。

今後は、急速に変化する市場環境に柔軟に対応できるよう情報集約の一元化や、企画実行のプロジェクト化により、経営資源のより有効的な活用を推進してまいります。

II. 人材成長

新型コロナ禍により雇用に対する不安が広がっておりますが、引き続き当社は全社員が「生活力」と「働きがい」を感じることができる企業風土・環境の整備に取り組みます。全社員が必要とされる人材となり、自信を持って働けるよう、社員の「能力向上」「プロフェッショナル化の推進」を進めてまいります。また、研修制度の拡充、明確な行動指針とこれらに連動した人事評価制度で社員の成長を促し、生産性の高い組織構築に取り組んでまいります。

III. 新サービスの構築

新しい生活様式がスタンダードとなるアフターコロナに向けて、既存事業においてはサービス内容の見直しとともに、顧客とのタッチポイントの多様化を推進してまいります。また新規事業開発にも積極的に取り組み、世の中に求められる新しい商品・サービスを構築してまいります。

免責事項

本資料は、当社の企業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性・完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがありますので予めご了承ください。